

プロジェクト名	短期留学先でのリサーチ（ハンブルク編）
タイプとレベル	「スピーキングとリスニング」 A2～B1、 「ライティングと文法」 A2
期間	3週間から1ヶ月程度の短期留学+帰国後1ヶ月以内のプレゼンテーション
対象者	週2回1年間以上ドイツ語を学習した経験のある大学2年生以上の学生
計画面 <small>（課題、目的、学習対象、 利用可能なツール、技術的 な前提、進行プラン例）</small>	<p>課題 : 1ヶ月程度の短期留学中にテーマを決め、自由時間を使って、リサーチし、PowerPoint シート数枚程度のレジюмеを使って、5分～10分程度の発表を帰国後に行う。レジюмеや発表の言語については参加者のレベルにより自由とする。</p> <p>目的 : 1) あらかじめ選んだテーマに関し、ドイツ語圏で口頭による取材（A2～B1レベルのlistening）も含め、様々なリサーチを試み、2) 取材した内容を簡単なキーワードを使ってドイツ語でまとめ（A2レベルのwriting）、3) 聞き手のレベルを考え、話の内容を適切に構造化しわかりやすく伝える方法を考える。</p> <p>利用可能なツール :</p> <p>学生：ドイツ語圏の各種サイト、サーチエンジンを使った検索、Google マップ、Glosbe・Reverso Dictionary・Wadoku などのオンライン辞書各種、PowerPoint など。</p> <p>技術的な前提 PowerPoint プレゼンテーションのできる環境。</p> <p>プロジェクト進行プラン</p> <p>① 準備：たとえば、ハンブルクの場合なら以下のようなテーマリストを作り、どうやって調べたら良いかあらかじめ考えさせる。テーマは仮登録させるが、留学中に変えても良いとし、また、このリスト以外にテーマを自由に設定することも可とする。</p> <p>テーマ例：Stolpersteine（つまづきの石）、KZ-Gedenkstätte Neuengamme（ノイエンガンメ強制収容所）、Elbphilharmonie（エルプフィルハーモニー・ハンブルク）、Hamburger Kunsthalle（ハンブルク美術館）、Museum für Völkerkunde Hamburg（ハンブルク民族学博物館）、Museum für Hamburgische Geschichte（ハンブルク歴史博物館）、Auswanderermuseum（移民博物館）、Universität Hamburg（ハンブルク大学）、Speicherstadt（倉庫街）、Hamburger Dom（移動遊園地）、Tierpark Hagenbeck（動物園）、Presse und Verlage in Hamburg（ハンブルクのマスコミ・出版）、Essen in Hamburg（ハンブルクの食文化）、Rote Grütze（ハンブルクの名物料理ローテ・グリュッツェ）、Was essen deutsche / japanische Studenten im Alltag?（学生は毎日何を食</p>

	<p>べているか)、die Freie und Hansestadt Hamburg (ハンブルク)、Altona, Hamburg (アルトナ地区)、die Hansestadt Lübeck (リューベック)、Kirchen in Hamburg (ハンブルクの教会)、Kaufhäuser in Hamburg (ハンブルクのお店)、Rathausmarkt (市長舎広場)、Hamburger Hauptbahnhof (中央駅)、Alster (アルスター湖)、Straßenmusikanten in Hamburg (ハンブルクのストリート・ミュージシャン)、Hamburger Platt (ハンブルク方言)、Wohnkultur in Deutschland vs. Japan (ドイツと日本の住文化)、Studentenleben in Deutschland vs. Japan (ドイツと日本の学生生活)、Schlagzeilen in der Presse / Topthema in Nachrichten (新聞の見出し・トップニュース)、Flüchtlingsprobleme in Europa (ヨーロッパの難民問題)、Europassage (ハンブルクの代表的なショッピングセンター) der öffentliche Verkehr in Hamburg (ハンブルクの公共交通)、Mülltrennung in Hamburg (ハンブルクのゴミの分別)</p> <p>① ドイツ語圏滞在中の課題：語学研修の自由時間を使って、選んだテーマに関し、自ら体験したり、スマートフォンを使って写真や動画を撮影したり、素材を集めたり記録したり、ネットでの情報検索等を行って自ら調べる。その際、可能なら短期留学先のチューターやホストファミリーその他知り合いのドイツ人の協力やアドバイスを積極的に受けるようにする。また、お互いに、中間報告を行わせ、第三者の意見やアドバイスを聞くことを奨励する。ドイツ滞在中の義務として、調べたいテーマに関して、必ず1人以上の人に、あらかじめ準備したうえで取材する。この取材は、公的なインタビューというよりは知り合いの誰かから話を聞くというものでいい、インタビューの準備として、あらかじめ質問項目を決めて、それを見せながら話す。相手の話を理解することが難しい場合は、キーワードを書いてもらい、それに対して質問する形で話すのでも良い。一人だけでインタビューする自信が無ければ、日本人の友人やチューターに取材に同席してもらってもいい。またアンケート(自由記述欄もあるもの)を作り数人の人に記入してもらい、その結果を基に話をするなど、自分(たち)のレベルに合わせて工夫する。</p> <p>② 帰国後の課題：ドイツ滞在中に作ったメモや資料を基に、印象が強く残っているうちに、レジュメ作成に取りかかる。テーマの提示、何故このテーマを選んだか、リサーチ結果(事実やデータの記述)、それに対する評価、当初の予想と結果の違いや自分の意見の変化等を含め、個人的な感想等を簡潔にまとめる。<i>tell</i>よりは<i>show</i>を考える。</p> <p>③ 課題報告会当日の課題：発表会は、企画運営も含めて学生たちがすべて行う。発表会は、他のクラスの学生にも公開する。参加者全員に1人2票与えて、最後に、面白かったと思う発表をした人に投票する(人気投票の実施)。報告した学生には、評価アンケートも書いてもらう。</p>
ポイント	1) 留学前の段階で、課題と報告会の日程を明示し、発表会は、企画運営も含めて学生たちがすべて行うと伝えておく。

	<p>2) 内容面では、自分が関心を持ちそれを誰かに伝えたいと思える課題について調べることを強調し、必要なら最初に決めていったテーマを渡独後に変えることも認める。報告会での<u>観客の存在を意識化させる</u>ことが重要。</p> <p>3) 最初に、前年度の作品をモデルとして提示してもいい。</p>
--	---

発表用ファイルの例： ドイツにおけるごみの分別



ごみの分別

- > Papier [青]
ex. 紙、新聞紙、ダンボール、チラシ
- > Wertstoffe [黄色]
ex. 牛乳パック、トマト缶、スプレー缶、しわくちゃでないアルミホイル
- > Restmüll [黒]
ex. 使用済みティッシュ、料理の残し油、肉、魚
- > (Bio-Müll) [茶色]
ex. 食べ残し(肉、魚以外)、ティーパック、葉っぱ
- > その他
 - ・電池
 - ・リサイクルできないガラス容器、プラスチック容器
 - ・その他

デポジット




① ペットボトル、缶、びんのリファウンドマークを確認する。(ない場合もある。)



② スーパーに行き、機械の中に入れ、レシートを発行する。

デポジット



③ 発行されたレシートをレジに持っていき、値引きまたは返金してもらう。

- ・ 幼い頃からの分別の教育
- ・ 色付きのゴミ箱
- ・ デポジット制度

→ ドイツの高いリサイクル率 (65%) cf: 日本 19%